

第1回ダムワーキンググループ会議 議事メモ

開催日時：平成16年7月11日(日)13:30~19:00

場 所：キャンパスプラザ京都 第1会議室

WGメンバー委員 24名、WGメンバー外委員 4名 河川管理者 30名

1. 開会

2. 経過説明

庶務より経過説明がなされた。

3. 審議

注) 発言内容の冒頭の記号は、以下を意味しています。

委): 委員長 リ): リーダー ・ : その他委員 : 河川管理者

資料についてはホームページを参照して下さい。

ダムWGの運営方法について

今本リーダーより「ダムWGの運営について」(今本メモ)を用いて提案がなされた。

また、サブWGへの所属やリーダーの設定について変更希望がある場合には、後ほど伝えて欲しい旨の発言があった。

サブWGのリーダー候補となっていた委員から調整を希望する意見があり、休憩時間に調整することとなった。

「ダムワーキンググループの運営に係わる検討事項」(資料2)について、庶務から説明がなされた。

リ) これまで委員会は完全公開にしてきたが、運営会議では事務的な理由により一般傍聴者の受入れは困難ではないかとの意見があった。頻繁に開催されることから、募集する時間がないためだ。密室でやっているという非難を受けないためにも、検討の中身については、速やかに情報発信していきたい。速記録は最終的に確認が取れるまで時間がかかるので、内容がわかるレベルの議事録を早く作るようにしたい。なお、議事内容の確認については、校正を速やかに戻すようにご協力願いたい。

- ・ これまで、地域部会長の立場にあったことから、自分の意見表明は控えていたが、今回、自分の立場を明確にしておきたい。私は、水は貯めるべきであるという考えだ。もっと真剣に、長期的視点に立って水問題を考えるべきだ。環境も大事ではあるが、古代から培われてきた土木技術の伝統を守っていくべきだ。現在建設中のダムを途中で止めるのはコストベネフィットの面からも無駄である。ダムは、本来、多目的な性格を持ってい

る。鮎の遡上等の問題も重要だが、技術的にクリアできることだろう。

リ) 大局的な立場からのご発言であり、真摯に受けとめたい。

- ・ 今本リーダーは運営会議で決められたかと思うが、改めて、委員会として今本リーダーの承認をとるべきではないか。委員長より一言お願いしたい。

委) 委員会として、今本委員にリーダーをお願いしたい。

拍手多数で承認された。

- ・ メンバーの面で不安がある。別表を見て思うのだが、川上ダム、余野川ダムで会議が頻繁に行われるとすると、5名がしっかり出ることができるかどうか懸念される。川上ダム、余野川ダムにもう2~3人増やすことはできないか。
- ・ コアWGには入っているが、サブには入っていない。どこかのサブWGに入っている必要があるのではないか。汗をかく覚悟はできている。川上ダム、余野川ダム各々5名のところを2~3名増やすことはできないか。全員が河川管理者からの説明を聞くことが重要だ。サブWGの判断で、河川管理者に出席いただくことは可能か。

リ) サブWGのメンバーについては、最低、これだけは必要という感じで丸を付けている。人数が多すぎると議論しづらくなるということもあるが、問題ないと思う。

- ・ 丹生、大戸川、天ヶ瀬の3つのダムは分けた方が良くはないか。少なくとも、性格の大きく異なる天ヶ瀬は、別のサブWGとすべきではないか。

リ) サブWGの数が多すぎると問題だ。やりながら、問題があったら修正するというところでいかがか。

- ・ サブWGのリーダーの件は、根回しもなかったことから困惑している。8月の中旬までは非常に忙しい。作業のスケジュールを、まず、メンバー各人が共通認識として持つ必要がある。

リ) 当初は説明を聞くことが多くなるので、その間に調整していくことが考えられる。

- ・ 8月の中旬までにまとめが必要となるのか。

委) 最終的に、現在の委員の任期中に結論を出したい。そのため、12月中には報告書を作りたい。そのためには、10月頃までには、かなりまとまったものがないとまずい。

リ) 説明を聞いたり、現地を見たりすることも必要となる。そのため、8月一杯でまとめるということはある程度あり得ない。しかし、任期があるので、12月中にはまとめたい。

- ・ 会議は公開されるのか。

リ) WG会議は公開であるが、一般傍聴者の受け入れは難しい面がある。WG会議は勉強会的な意味合いも強い。傍聴者を受け入れられない場合でも密室性を避けるために、検討内容はできるだけ速やかに公表していきたい。事務的な面から傍聴者の受け入れが難しいと考えている。

- ・ できるだけ傍聴可能にするべきではないか。可能性を追求して欲しい。

リ) 時間的余裕がないこともあり、本日の第1回と次回(第2回)は傍聴者なしでお願いしたい。

委)傍聴者を受け入れるということであれば、人数の問題があり、会場確保の問題がある。
議論の内容の即時公表ということではいかがか。

リ)これまで完全公開を原則にやってきているので、一般傍聴者を受け入れないというのは心苦しい。もう少し検討させて欲しい。

- ・活動を限っても傍聴受け入れを行った方が良いのではないか。議論のまとめも要旨が抜けていることが多い。
- ・何らかの方法で、傍聴を可能にするようにした方が良いのではないか。整理券の配布等で人数制限をしても、受け入れる方向で考えて欲しい。

リ)打合せの時間を20分取りたい。14:30から再開する。

<休憩>

リ)「一般傍聴者を受け入れない」は取り消したい。何らかの方法で受け入れることを考えたい。

本日は、ダムWGに緊張感を高めて参加している。7月2日付けで芦田委員長に提出したメモをもとに河川管理者の覚悟と委員会へのお願いを述べさせていただきたい。

「ダム計画の調査検討に関する今後の審議について」をもとに発言

リ)今日は、その議論は置いておいて、ダムの説明をお願いします。

川上ダムに係る報告(資料3-2をもとに)

河川管理者(木津川上流河川事務所)より説明がなされた。

- ・資料p17の表で、黄色の網がけ部分のみ氾濫量が大きく減少するのはなぜか。理解できない。おかしいのではないか。

この場で、明確に説明できないが、次回までに説明できるようにしたい。

- ・遊水地の地域を固定している。氾濫量を減らすことが目的なのか、あるいは、床上浸水などを軽減させることが目的なのか。治水計画の目標を何にするのか。

基本的には、氾濫量を減らすことが目的であるが、工費のことなども考えなければならない。諸元を決めるということではなく、ケース設定をして、氾濫量を出してみるというシミュレーションを行っている。

氾濫量といっても、その対象地が水田なのか市街地なのかで大きく異なる。単純に氾濫量だけではない。当然工費のことでも考えなければならない。

- ・被害の「解消」ではなく、「軽減」としたのであるから、目標の設定がないと議論できないのではないか。
- ・4つの越流堤の条件を同じにするよりも、個別に設定することでより精度が上がるのではないか。河床掘削をしないというのは、効果を下げているのではないか。

河床掘削の件は計算が完了していない。

- ・ 配布されたパンフレット「川上ダムの計画について」の中にある「解消」は「軽減」の誤りではないか。

昨年4月にパンフを作成した時点では、「解消」を前提としていたため。

- ・ 1次遊水の可能な地域はたくさんあるのではないかと。越流した場合に、一定時間の中で、どれだけ外に出るのかわかりやすく示して欲しい。
- ・ 河川工学の専門家だけではないので、わかりやすい資料を出すとともに、みんながわかるように説明して欲しい。

リ) 細かな議論はサブWGでして欲しい。

- ・ ハイドログラフで特定の洪水を前提としているが、なぜに、この洪水を選んだのか、理由を教えて欲しい。

リ) 今日でなくても良いのではないかと。

- ・ p13、表3-2にもう一つ欄を作り、大洪水、中・小洪水のランクを示して欲しい。4ヶ所の遊水地に関する部分がよくわからない。
- ・ 県が管理している部分は現況を前提としているのか。テクニカルタームはやさしく説明して欲しい。

リ) まだまだ質問があると思うが、時間の問題もある。回答の準備等もあるので、質問は文書で出して欲しい。

私も質問がある。天端から余裕高を引いたところで破堤するという前提はおかしいのではないかと。その前提がおかしいと、計算の意味がなくなる。なぜに河道掘削をしないのか。前提が問題である。文書で質問する。

ここで休憩を取りたい。16:05から再開する。

<休憩>

余野川ダムに係る報告(資料4-2をもとに)

河川管理者(猪名川総合開発工事事務所)より説明がなされた。

委) 被害の「軽減」の目標を決める必要がある。たとえば、床上浸水をしないようにするとか、浸水頻度を軽減するとか。あとは、経済的な検討も重要である。そのあたりをどのように考えているのか。

「解消」は困難なので、今後示したい。

- ・ 昔は5~10年に1度くらいは田畑が水につかるのは当たり前だと農業関係者は考えていた。補償する必要があるのかどうか。地域に応じた治水の安全度が必要だ。
- ・ 前回の説明の内容と今回の説明が異なるのではないかと。説明のたびに違うような気がする。流量で説明したり、容量で説明したりしており、全体としての比較がわかりにくい。

今後の説明と併せてお話しする。

- ・ 代替案については事業費単価をある程度示してもらわないと判断が難しい。限られた財

源の効果的活用という面でも比較する必要があるのではないか。

治水効果、事業費等を総合的に評価する必要がある。説明させていただきたい。

- ・ 議事の進行に対して意見がある。数字が出てきても、以前の検討から何も進んでいないように思う。今の程度の検討ではお話にならない。きっちり検討したものを出してもらわないと、キャッチボールにならない。

一庫ダムの説明

河川管理者（猪名川総合開発工事事務所）より説明がなされた。

- ・ 放流の操作規則について、新旧の違いをもっと説明して欲しい。差があり過ぎる。
一庫ダムの効果には限界がある。治水容量を増加させる効果があるということについて、その理由を説明した。
- ・ 説明を途中で切られるとわからなくなる。本来の重要な部分を説明して欲しい。今までの部分はどうしてもよい部分ではないか。

（説明再開）

委）一庫ダムでは、一定量放流するよりも、流入量に応じて放流量を増やした方が良いのではないか。

これまでは一定量放流のみを検討してきた。現実と合わない操作をしていた面がある。

150m³/s よりも流量を大きくすると下流の流下能力を超えてしまう。その関係で、150m³/s 以上は放流できない。

委）大きな洪水に限っては一定率放流の方が良いのではないか。操作方法については、もう少し考えた方がよい。

- ・ p45の2つのケースとは何か。何が前提で、何が結果なのかよくわからない。他のところも、全部、そのような書き方になっている。
- ・ ダム堆砂は治水・利水容量をくわないようにするべきだ。

委）書いていることは、間違いのないと思う。

- ・ 治水容量を振り替えた時に、どれくらいのものまでであれば、被害を「なし」にできるのか。
- ・ 堆砂の関連では、115万m³/sを有効に使うことはできないか。また、嵩上げは、何故に3m、4mではだめなのか。話を聞いている限りでは、この方法が一番効果的だと思う。

リ）説明者の回答が不明確である。

- ・ 高度な情報技術を使ったコントロールの方法があるのではないか。
- ・ 150m³/sしか流せないのであれば、200m³/sを考えるのはナンセンスなのではないか。
河道掘削等をセットで考える必要がある。
- ・ 「できない」という答え方がいいのかどうか。こういう点については「どうでしょう

か？」という問いかけが重要ではないか。ここまでははっきり言えるが、この部分はどのように考えたらよいのか、問いかけることが重要。出し方をじょうずにして欲しい。

- ・ グラウンド、農地の問題は、農水省とか県とかと調整が必要ではないか。
- ・ 予備放流という方法はあるが、「あきません」とだけ言っている。150万m³/sより増やせないとなると支離滅裂になってしまう。

水利権等の問題をまじめに考えておいた方がよい。緊急渇水状態では、水を融通する必要がある。国交省ではどのように考えているのか。パーツは出ているが、パーツの組み合わせによる論理構成になっていない。論理の組み立ての問題だ。

リ) 休憩を取り、6:15から再開する。

< 休憩 >

川上ダム、代替案の検討

水需要計画の見直し

河川管理者より説明がなされた。

- ・ 現状を共有しようということをやっているが、それぞれの担当部所で差があるように感じている。
- ・ 利水計画があまり進んでいない。従来 of 検討の繰り返しの様な気がする。次回はきちりしたものを出して欲しい。
- ・ 調査・検討を行う際、一例としてp16、p17の部分(予備放流)は、そこをどうするかという議論をしてきているのに、進化が見られない。2年前に当時のダムワーキングで聞いた話と変わっていないように思う。

サブWGの構成について

結果として、別紙のとおりとなった。

その他

リ) ダムWGはできるだけ傍聴者の受け入れを行っていきたい。

- ・ ダムWGの場合には、作業する部分もある。作業や勉強の時などは傍聴なしでもよいのではないか。

以 上

別紙

淀川水系流域委員会 ダムワーキンググループ サブワーキング等所属状況(H16.7.11現在)

:リーダー :サブリーダー
:メンバー :極力参加

委員氏名	サブWG			コアWG	
	3ダム	川上	余野川		
芦田 和男					委員長(ダムWGメンバー外委員)
池淵 周一					利水部会長
今本 博健					治水部会長・WGリーダー
江頭 進治					
大手 桂二					
荻野 芳彦					3ダムWGサブリーダー
嘉田 由紀子					
川上 聡					川上ダムWGサブリーダー
川那部 浩哉					琵琶湖部会長
倉田 亨					
宗宮 功					環境・利用部会長
田中 真澄					
田中 哲夫					余野川ダムWGリーダー
谷田 一三					
塚本 明正					
寺川 庄蔵					
寺田 武彦					淀川部会長
中村 正久					
西野 麻知子					
畑 武志					
原田 泰志					
細川 ゆう子					
本多 孝					余野川ダムWGサブリーダー
榎屋 正					川上ダムWGリーダー
水山 高久					3ダムWGリーダー
三田村 緒佐武					住民参加部会長
村上 悟					
森下 郁子					
山本 範子					
米山 俊直					猪名川部会長